

ひだまり



例年より梅雨入りが早く、蒸し暑い毎日が続いています。今年も庭園には色とりどりの草花が咲き、患者さんとの散歩で季節を感じ、私達も心和む一時になっています。今年度は、がん患者さんが困ったときの『どうしようか…』のヒントとなるお話を紹介していきたいと思います。

～がん治療中に痛みやしんどさが強くなったAさんのお話～

※実在の患者さんではありません

抗がん剤治療中のAさんは、最近、体のしんどさと、痛みが辛いと感じるようになりました。



70歳男性
Aさん

だるいし、ごっつい痛くて通院できん。通院できんかったら治療してもらえんな。頑張ってきたのに…残念だ。

緩和ケアの話をした時、Aさんはすごく嫌がられたけど、すごくつらそうだし、もう一回話してみよう。

主治医



だるさや痛みをとる「緩和ケア」を受けてみませんか？

痛みや、しんどいのは薬が効いとる証拠。辛坊する。

わしは辛抱強いといわれてきた。辛抱できんようになったら、終わりや。

本当、Aさんは辛抱強い方ですよ。でも今のつらさは我慢しないほうがいいと思います。痛みやだるさと、抗がん剤の効果は関係ないんですよ。



主治医は緩和ケアとがん治療を一緒に受けている患者さんの話をしました。

緩和ケアは外来・入院のどちらでも受けられるが、入院すると一旦抗がん剤治療は休むことも説明しました。



薬の効きとしんどさは関係ない？みんな薬が効いとると思って我慢しとるで。つらさをとりながら治療する… ええなあ。



そうですね。受けてみませんか？



そうだなあ、通院できんで、入院して緩和ケアを受けようか。辛抱しとるみんなにも、先生のええ話しちゃうわ。

～緩和ケア病棟退院後～

Aさんは痛み止め薬の処方や、薬剤師から痛み止めの頓服を飲むタイミング、理学療法士から体に負担をかけない動き方などの指導を受け、退院しました。

楽になったわ。痛くなくても、いろいろ教えてもらったで安心だ。隣の玄さんと前みたいに将棋ができるな。



先生、また治療したいけど、できるか？

そうですね。様子を見ながら相談していきましょう。



がん治療の痛みやしんどさを「緩和ケア」で和らげることで受けたい治療や望む生活を自分で選ぶことができます。

季節の行事

端午の節句の会



今年はコロナ禍のため、鯉のぼりを作成し、各病室で一緒に楽しい時間を過ごしました。患者さんより、「看護師さんの気持ちが伝わった」「楽しかった」などの言葉をいただきました。

編集後記

4月に師長が異動になりました。新生チームとして、これからも変わらず患者さんやご家族に寄り添っていきたく思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

(編集委員)